

8012 いつも思うことだが、時代小説や推理小説を・・・

いつも思うことだが、時代小説や推理小説を書くというのは大変な仕事である。一般にこれら的小説はエンタテイメントといわれている。つまりたかが小説じゃないかというわけだ。しかしそのためにはこれらの小説の書き手は、優れた職人でなければならぬと私は思っている。大体、生活人を楽しませるというのは骨の折れることなのである。エンタテイメントの世界は生活人からそっぽを向かれては、もはや立つ瀬がないのである。

久茂土朗『したたかな職人芸』

#### [許容訳例]

It is a hard task, I always think, to write period novels and detective storied. Such novels are generally referred to as “entertainment”: they are, it is held, strictly for amusement. I myself feel, however, that one must be an excellent craftsman in order to write them. Generally speaking, it is a tough job to please the man-in-the-street. The world of “entertainment” would not exist if it were not supported by ordinary people.

#### [翻訳例]

I always think what a hard job it must be to write period novels and detective storied. The general view of such stories is that they are “entertainment”: that their aim is to amuse and nothing more. In my opinion, though, in order to write this kind of story one needs to be a first-rate craftsman. To divert someone who is preoccupied with making a living is, by its nature, no easy task. Without the support of the man-in-the-street, the world of “entertainment” would lose its justification.

■いつも思うことだが、時代小説や推理小説を書くというのは大変な仕事である。(8012)

★「いつも思うことだが」ですが、I always think that [why, how, what, etc.]…がいいでしょう。これらの表現は会話的ですが、この隨筆的な文章にはちょうどよいと思います。ただ、注意しなければならないのは、I think that…の場合には、自分が経験していなければいけませんから「さぞ・・・だろうと思う」というようなニュアンスが入っている場合には使えません。その場合には I always think how[what a]…must be…という言い方になります。must be は「だろう」という話者の主観です。ここでは、小説家当人の意見とも、そうでない人の感想ともとれますので、どちらでもいいでしょう。「大変な仕事である」と続くので、ここでは I always think what a hard job…としたい気分です。となると、ここでは consider は使えません。consider を使う場合には、自分でも経験したり、あるいは実際に見たりして、判断の材料があるという場合になります。I consider him to be a very reliable man.という場合もそうです。基本的な判断の材料を持っていて、いろいろ熟慮した結果 reliable man だと思うという意味です。ですから、I always consider how difficult it must be…という言いはしません。

★「時代小説」は a period novel です。歴史的事実に基づいて実在の人物を登場させる a

historical novel (歴史小説) は、ここでは使えません。

★「推理小説」は a detective story でいいと思います。総称して detective fiction という言い方もあります。mystery はちょっと程度が落ちるような気がします。

★「大変な仕事」は hard job ですが hard task も使えます。ただし、ここでは hard job の方が会話的でいいのではないかと思います。

■一般にこれら的小説はエンタテイメントといわれている。(8012)

★「一般に」は generally; as a rule が使えます。on the whole は「大体において」で、たとえば、On the whole I like him. (ちょっと気に入らないところがあるけど、大体において、いいんじゃないかな) というような場合に使うものです。他には The general view of such stories is that…という訳も可能です。

★「これらの小説」は these novels でもいいですが、such novels も使えます。

★「エンタテイメント」は、特別の使い方なので引用符で囲んで“entertainment”とした方がいいです。

★「…と言われている」は、ここでは分類の仕方を言っているのですから be referred to as…; be regarded[considered] as…とか、It is held that…とかです。be called は「そういう名前を付けられている」という意味ですからここでは好ましくありません。その点では be known as…も同じ理由で使えません。

■つまりたかが小説じゃないかというわけだ。(8012)

★「つまり」は同じことをもう少し詳しく（あるいは、別の言い方で）説明しようということですからコロン(:)を使うといいと思います。

★「たかが…」には merely, solely, strictly などがありますが、…and nothing more で表すこともできます。

★「娯楽小説」は novels for amusement[recreation]ですが、novels はすぐ前でも使うので省いた方がいいでしょう。なお、「娯楽」ですが、pastime は、本人が何かやって遊ぶ場合、たとえば、Reading such novels is a pastime. というように使います。「趣味」といった感じで、小説自体が pastime とは考えられないで、ここでは使えません。

★「(たかが)…じゃないかというわけだ」は「(たかが)…じゃないか」が個人の意見であるのに対して、話者も含めてみんなの意見を述べていると考えることができます。ですから they are, it is considered, for amusement and nothing more とするといいと思います。

■しかしそのためにはこれらの小説の書き手は、優れた職人でなければならぬと私は思っている。(8012)

★「そのためには」とは「そういう小説を書くためには」ということですから in order to write such novels…ですが、novel という言葉が何度も使われてくどいので、them とか、あるいは this kind of story に変えるといいと思います。

★「これらの小説の書き手」は writers of these novels としてもいいのですが、また novels を使うことになります。考えてみれば、この「書き手」は特定の人ではなくてもいいわけで

すから one を使うこともできます。

★「優れた」は excellently good とか first rate がいいでしょう。ついでながら, excellent という形容詞は This composition is excellent. のように predicate としてもよく使いますし, また, This is an excellent book. のように単なる形容詞としてもよく使いますが, この「優れた」に含まれている「他と比べてしば抜けて (あるいは, 非常に)」という意味ではありません。

★「職人」は craftsman とか technician ですが, ここで一番いいのは craftsman です。なお, workman は使えません。workman というのは, 何か特別な技能を持っていなくてもいいのです。artisan は, 今では art という感じはほとんどなくなって, workman に近い感じがします。場合のよっては工場で働く人を言うこともあるので, ここでは使いたくありません。

★「・・・でなければならない」は, 主観的な意見としては must be…であり, 客観的な見地に基づくなら needs to be…でしょう。

★「・・・と私は思っている」は, 理論的根拠に基づく「思っている」ではないので, I myself feel…とか in my opinion でしょう。

■大体, 生活人を楽しませるというのは骨の折れることなのである。 (8012)

★「大体」は「これから言おうとしていることは, 一般的なことで, しかも何らかの形で今まで言われてきたことの説明になるけれど」と解釈できます。Generally speaking が考えられます, 翻訳としては, 省いてしまうか, 文の途中に after all (何しろ) とか by nature (もともと; そもそも) を使うのがいいと思われます。

### ● 「隠れ連体修飾節+体言」(生活人)

「生活人」は, ここでは「仕事に追われて, 生活していくことだけで精一杯という日々を送っているので, あまり難しいものを読む気にならない人(たち)」という意味で「連体修飾節+不定代名詞的体言」ですから「(代)名詞+関係詞節」で処理することになります。たとえば, one who is preoccupied with making a living のように。なお, 「隠れ連体修飾節+体言」に似た造語法は英語にもあります。たとえば, the man-in-the-street (普通の人・素人・市井の人) がそうで, これも「生活人」の訳として使えます。ordinary people よりはましです。

★「楽しませる」は please でもいいですが, 楽しませる対象が「生活人」なので, 少し踏み込んで divert を使いたいと思います。divert には amuse の意味もありますし, 「気を紛らせる, 慰める」という意味もあるからです。to divert someone who is preoccupied with making a living です。

● 「・・・というのは・・・である」は It is…to-Inf.あるいは To-Inf…is …です。

★「骨の折れること」は no easy task とか tough job でしょう。

■エンタテイメントの世界は生活人からそっぽを向かれては, もはや立つ瀬がないのである。 (8012)

★「エンタテイメントの世界」は the world of “entertainment”しかないのでしょう。

★ 「そっぽを向く」は turn one's back on という表現があります。辞書には look the other way とか turn away が出ていますが、turn one's back on とはつまり turn the other way ということですから表現としては同じです。しかし、これらはいずれも動作を表す表現で、ここでは使えません。この「そっぽを向かれては」はメタファーですから、その意味をくみ取って without the support of…とするか、あるいは if it were not supported by…です。

★ 「立つ瀬がない」は、普通は「立つ瀬=世間に対する面目」という意味で、辞書には「君に断られては立つ瀬がない」(Your refusal will put me in dilemma [leave me in an awkward position].)という例が挙げてありますが、ここでは「成り立たない、何にもならない、やつていけない、存在理由がない」というような意味で使われているので、利用できません。ここでは could not exist if it were not supported…とか、could not keep going (やっていけない)とかの表現か。Where would something be…?という表現、これは、たとえば、Where would I be without my wife?は「どうしようもない」という意味になりますが、これを使って Where would the world of “entertainment” be without the support of the man-in-the-street?とすることができます。ただし、直接話法的な文を地の文に入れるのは好まれませんので、Without the support of the man-in-the-street, the world of “entertainment” would lose its raison d'etre [lose its justification]とするといいでしょう。